

事業所名 グループホームあけぼの
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月27日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 通所介護事業所管理者
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法リーダー、ホームヘルパー養成講座講師、生活相談員
B:現職 理学療法士
資格・経験 障害児施設勤務(20年)、理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中にあつて、地域の人たちと共にあるホームをめざしている。「地域の人たちの役に立ちたい」、そんな思いで開設したホームは、地域や家族との結びつきを重視した運営を行い、市町村や保健医療サービス、福祉サービスとも連携を図りながら、入居者の暮らしを支えている。 ・入居者の日常生活そのものがリハビリテーションである。毎日決まった時間にリハビリテーションに通うことにより、心身の機能維持はもちろんのこと、認知症の方のケアで重要な一日の生活リズム作り、一週間のリズム作りを行い、成果を上げている。 ・いつも入居者が笑っていられる生活をめざしている。入居者と職員が寄り添い、共に支え合うケアを心がけており、入居者の行きたいところ、食べたい物、したいこと等、お互いに様々な意見を出し合いながら、できる限り入居者の希望に応え、入居者・職員が和やかに笑い合せて暮らしていけるよう取り組んでいる。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が暮らしていて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハード面での入居者への細やかな配慮がある。木の持つ風合いを生かした建物全体の材質やデザインに加えて、階段の踏み面には滑りにくいように切り込みが入れられており、手すりの内側には指型に合わせて波模様が入っており、壁面の随所に季節に合わせた装飾が施せるようにコーナーが設けられている等、入居者の心身共に優しい造りとなっている。 ・季節の移り変わりを感じてもらえるように、年始めには初詣に出かけ、書初めや羽根つきを楽しみ、春には藤餅やサツキを見に出かけ、秋にはお月見をする等、月毎に様々な計画を立てて実行している。 ・職員は、常に入居者に話しかけており、入居者と職員が一つの大家族のように触れ合い、笑いながら過ごしている。職員の入居者に対する接し方が自然であり、入居者も安心して自分のペースでゆっくりと過ごしている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評
<p>全体を通して特に良いと思われる点など(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市児島の市街地の住宅地の中にホームはある。バス停からも近く、交通の利便性も良い。ホームは「和」の趣きを最大限に生かした造りで、木の持つ風合いが風の良い質感をかもし出している。室内の装飾も季節感を大切にしており、壁に挿した薄桃色の櫛や、入居者と職員が楽しみながら作った壁飾り等、落ち着いた居心地の良い居住空間であり、日本文化が大いに感じられる感性豊かな空間となっている。 ・法人代表者は母体医療機関の理事長でもあり、「地域のために、地域の人の役に立ちたい」との思いからホームを開設した。毎朝、入居者の顔を見にホームに立ち寄り、入居者の手を取り、言葉をかけ、必要であれば診察をする等、入居者の健康を一番に考えている。また、入居者がリハビリを受けに行くと、自分のリハビリだと称して自らが率先して体を動かし、リハビリの指導をする等、入居者を大切に思う気持ちが伝わり、家族は安心して任せられる。 ・日曜を除く、毎朝9時になるとリハビリに通うのが入居者の日課であり、楽しみともなっている。また、認知症の方にとって大切な一日のリズム作り、一週間のリズム作りとなっており、認知症の進行防止にもなっているのではないだろうか。入居者の身体機能の維持について、代表者や看護師からの指導もあり、職員にとっても良い研修の時間となっている。
<p>特に改善の余地があると思われる点(記述)</p> <p>特に改善点はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表者の、「地域の人たちのために役に立ちたい」との気持ちが、周りの人すべてに浸透していっているように感じ、とても清々しい思いであった。これからも、地域になくてはならない存在として、邁進していかれることを希望する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団での生活は、不安やストレスの原因となることもあり、職員は入居者が一人で過ごす時間を大切に、付かず離れず、入居者の様子を見守っている。 ・余暇活動が、充実しており、入居者の好きなことや得意なことに取り組んでもらえるように積極的に働きかけている。園芸の好きな方には、野菜の種を蒔いたり、苗の植え付けをしてもらい、充実した時間を過ごしてもらえるように働きかけている。また、家事の得意な方、編み物や縫い物などが得意な方には、材料を準備して楽しみながら取り組めるよう支援している。 ・プライバシーの保護については、雇用契約の際に入居者及びその家族の秘密を保持するという旨の文書を交わしている。個人ファイルについては、他の人の目に触れないように戸棚に鍵を掛けて管理している。生活の各場面でも、個人情報の保護について留意している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書の中で、円滑迅速に苦情処理を行うための処理体制・手順、緊急事態及び事故発生時の対応、入居者や家族への対応等、事細かに一連の流れについて説明しており、全職員が入居者の安全・安心な暮らしの提供に取り組んでいる。 ・月毎の行事計画を立て、実行後は反省点もふまえて報告書を作成し、次へとつなげている。継続して実行することで、入居者の生活に潤いと楽しみをもたらしている。 ・各種マニュアルを(体調不良を訴えた場合・姿が見えなくなった場合・行動制限廃止・身体拘束禁止等)整え、全職員が素早く対応できるようにしている。 ・室内や室外のハード面での環境作りやその保持について、また、入居者と職員の関係作りとその保持について弛まぬ努力を続けており、職員が当たり前のように取り組んでいる姿は素晴らしい。 		